

山 旅

会報 No.232

好山好山旅会



林の地面は一面のオウレンの花 (姥ヶ岳)

平成25年 7月例会山行計画

第一例会	7月12日(金)～14日(日)	
中央アルプス	木曾駒～空木岳	担当者 太田
第二例会	7月19(金)～22日(日)	
北アルプス	針木岳～蓮華岳	担当者 清水
第三例会	7月27日(土)	
栃木	芝草山	担当者 長島

平成25年5月の例会

《鳴神山》

5月12日(日) 晴 参加者;土方 中村 池田 (計3名)

—土方記—

11日(土曜)の予定であったが天気が悪く12日に変更して行く。新桐生駅に集合しタクシーと自家用車に分乗して出発。途中、下山口である観音橋に自家用車を置いてタクシーで登山口へ向った。計画では木品から登る予定だったが小野さんのアドバイスにより花の多い鍋足の登山口より登る事にした。鍋足登山口は下山に利用される事が多いルートで、良く整備されており木品からのルートより歩きやすかった。途中たくさんの花が咲いていて(名前はすみません忘れまして)特に尾根に出る最後の斜面にはカッコウ草が群生していて満開であった。木品から登っていたら、この花には会えなかった。(木品口の自生地は花が少なくなってしまった)

尾根から山頂までは僅かな登りでイワカガミが咲いていた。山頂は狭く登山客で混雑していたが展望はよかった。山頂から金沢峠までは静かで登山客も少なく新緑が実に見事で気持ち良く歩いた。金沢峠から観音橋までは、林道のような作業道でニリン草がたくさん咲いていた。

コースタイム 鍋足登山口(9:35) 尾根(10:50) 山頂(11:20) 三峰山(13:30) 金沢峠(14:00) - 観音橋(13:00)

費用 タクシー代 4,200円

《冠山と荒島岳と姥ヶ岳》

5月18日(土)~5月20日(月) 参加者;清水 中村 斉藤 鈴木 瀬川 船生

(計6名)

1日目 荒島岳 快晴

—船生記—

天気予報では3日間のうち、今日が1番晴れる確率が高いという事で荒島岳に登る事になった。廃業となった勝原スキー場からのスタート。最初は舗装された道を歩き斜度を上げ岩、砂利が多いコースに変わる。登山開始から1時間ほどで本格的な登山道になり、整備されて歩きやすい。

特にコースの大半がブナ林であり、新緑に覆われて清々しく気持ちが良い。途中白山ベンチがあり、ここからは雪を被った白山連峰が眺められた。その先、階段が多くシャクナゲ平から山頂にかけては、急で段差の大きい階段それに加えて鎖・ロープがある。ゴツゴツした大きな岩が登山道を覆うように露出している。厳しい登りを終えると一部雪が残っている。登山道のわきにはカタクリ・ショウジョウバカマ・イワウチワ等の花がたくさん咲き、やや急登を過ぎササの中を登り、荒島岳の山頂が姿を現し、頂上に至る。

山頂は眺望抜群360°の展望を思いのままにし、下りは登って来た道を確認ブナ林の

風音を聞きながら・・・。春から一気に夏に突入するかのような好天の荒島岳登山でした。

2日目 冠山 曇りのち雨 ー清水記ー

今日は、昨日とうってかわってどんよりとした曇り空。少々機嫌の悪いナビくんのお陰で、道迷いをしたものの、どうにか冠山林道に入ったが、冠峠9キロ前の林道にゲートがあり、積雪のため通行止め。

天気もいまいちだし、とりあえず冠峠まで林道を歩くことに決めて歩き始める。かなり遠くに、烏帽子のような山が見えるので、あれが冠山かとも思いながら歩き続けるが、林道歩きは、辛いもので、なかなか距離を稼げない。林道脇の藤の花に見とれたり、ニリンソウ、イワナシ、サンカヨウ、豆サクラなどお花も多いし、ウドやイタドリ、ワラビなど山菜も多いので林道歩きは、前になかなか進めやしない。

この林道、雪の塊もあっちこっちにあるし、土砂崩れや、大木が道路を塞いでいたり、道路のミラーも壊れているし、ガードレールの破損箇所も多いし、大きな石もゴロゴロしている。いつになったら開通するのか、今のところ未定なのかな？

色々考えて歩いて行くと、先頭を歩いていた船生さんが、「熊鈴ある？」と急に真剣な表情。なにやら、茂みの中でがさがさという音が聞こえたらしい。茂みから現われたのは、山菜を採りに来た、岐阜県の農家のおじさんだった。ウドなどいっぱい担いで、料理屋さんに売ると言っていた。岐阜県からの林道は、開通していて峠まで行けるらしい。

峠の手前1キロぐらいのところ、時間も無くなり、雨もポツポツ降ってきたので、今日の山歩きは、ここで終わりになり、山菜採りをしながら下山した。

事前に、冠峠の状況を調べなかったリーダーの甘い判断で、こういう結果になってしまったこと、本当に申し訳なく思ったが、優しいみんなが、山菜採りで満足してくれたので、救われた気持ちです。大野市の中島屋のおばさんも、山菜好きで、夜は、山菜談義でおおいに盛り上がり、楽しい夜となりました。

3日目 姥ヶ岳 曇りのち晴 ー鈴木記ー

名前からは足を踏みいれたくない山なのだが、隠れたる？花の名山である。福井方面への山行ということで、足をのばしてみた。福井の山へのアプローチは厳しい。それだけに自然がたっぷり残っているようだ。

通行止めのゲートをすりぬけ真名川沿いに進み、巢原橋を渡り山道へと入る。平家平まで車で入る予定であったが、道がダートであり軽自動車では無理ということで平家橋から歩き始めた。小雨の中、緑濃い雑木林ブナ林を登る。なかなか本来の登山道を見つけることができず時間をだいぶロスしてしまった。

やっと道標を見つけ平家平からの道に合流したあとは、ずーっと花の道であった。奥へ奥へと進むにつれていろいろな花が現れる。白とピンクのミヤマカタバミ、キクザキイチゲ、スミレサイシン、沢沿いにはチャルメルソウ、ネコノメソウ、ザゼンソウ等々。しばらく行くと一面のサンカヨウ、満開にはまだまだであったがこれだけの群落はなかなかお目にかかれない。下では緑の実をつけていたオーレンが、白い花をつけてびっしり林床に咲いていたのは圧巻であった。これは漢方薬を作るためのオーレン畑だそうだ。

さらに奥に行くと残雪が現れ木々の芽吹きも始まったばかりである。沢を超え進むと今度は足元にイワウチワ、バイカオーレン、ショウジョウバカマが、上を見ればタムシバ、マンサク、クロモジ、湿地帯ではミズバショウの群落、となんとともにぎやかに咲いている。そこでお昼をし、帰りの時間も考えて頂上は断念して引き返すことにした。

帰りの道は日もさしてきて一気に青空が広がり、ブナ林の向こうには姥ヶ岳の山頂もみることができた。雨に濡れてしぼんでいた花々も開いて道端はカラフルで大賑わいである。お目当ての濃いピンクのミヤマカタバミがあちこち咲き愛らしかった。たくさんの花を見ることができて良い山旅になった。

来た道を戻り、平家橋に着いたときは真夏のような青空になっていた。

コースタイム

18日 勝原登山口 10:40 リフト終点 11:30 白山ベンチ 12:25 シャクナゲ平 13:30
荒島岳頂上 15:00~15:20 シャクナゲ平 16:10 リフト終点 17:30 登山口 18:20
19日 冠山ゲート 9:20 途中の撤退地点(冠峠まで1キロ手前) 12:30 ゲート 14:20
20日 巢原橋 7:20 作業道と書いてある林道 8:30 水芭蕉群生地 10:35 ブナ林 11:30
平家平ゲート 12:50 巢原橋 13:40

費用 高速バス代 8300円 レンタカー代 15720円×2 ガソリン代 4609円
パークホテル九頭竜 8100円 中島屋旅館 6700円 電車代 13500円

《額取山 1008m・磐梯山 1818m》

5月25日(土) ~ 5月26日(日)

参加者： 土方、中村、船生、高橋、板橋 計5名 一板橋記一

1日目 額取山 晴

7時に東川口駅に集合。7人乗りのレンタカーで出発。朝早く出たかいがあり高速もすいていて10時20分に登山口の御霊櫃(ゴレイビツ)峠登山口に着いた。額取山(ヒタイトリヤマ)は、猪苗代湖と郡山の間であって、好展望の山として知られている。天気がよいため登山口からこれから歩く山道が良く見える。ぶなの新芽の間から差し込む木漏れ日が心地よい。薄紫のアズマギクがあちらこちらにあったが、今一花色が冴えなかった。最初のピーク黒岩山からは、歩き始めた峠の駐車場や次のピーク大将旗山(タイショウキヤマ)の縦走路が望めた。歩いてきた道もこれから行く道も両方見渡せ、さすがに展望の山だ。花は多く、カタクリは終わっていたが、キクザキイチゲやエンレイソウが見頃だった。トリカブトの新芽も群生していた カエデの種類も多いので秋の紅葉も素晴らしいに違いない。

今日の最高峰大将旗山からは、磐梯山の左に真白い雪を被った飯豊山、右には吾妻連峰、振り返ると猪苗代湖が見えた。額取山で昼食。日差しが強く、暑かった。地元の団体さんがいて、大賑わいだった。ここからも360度の展望。爆発のため真ん中が吹き飛び、双耳峰のように見える磐

梯山が良く見えた。頂上から往路を 戻った。1 時間 15 分のドライブで中の湯着。標高 1080m、山の中の一軒宿。建物は古いが温泉の効き目はすごいらしい。福島から山菜を取りに来たという男性に聞いたら「頑固な便秘が治った」とか「ひどい喘息が完治した」という人がいるそうだ。大震災以降お湯の温度が 2 度ほど上がり 41 度になった。以前は 2 時間入れたが今は 1 時間も入れなくなったとのこと。自炊宿のため、温泉のあと部屋に集まり各自の食料を食べた。

コースタイム：10:20 御霊櫃峠登山口 10:25 - 10:55 黒岩山 10:55 - 11:20 大将旗山
11:25 - 12:15 額取山 12:45 - 2:50 御霊櫃峠 2:55(車で移動)4:10 中の湯

2 日目 磐梯山 晴

山は早立ちが基本。4 時起床、5 時 15 分出発。大震災以来無料になった裏磐梯有料道路を快適に進む。すばらしい新緑の下、40 分のドライブで八方台登山口に着いた。丁度今日が磐梯山の山開きの日で、大きな駐車場がすでに満車状態だった。6 時 15 分登山口発。所々雪が残っていて、道がぬかるんでいる。ツバメオモトの群生があった。30 分で中ノ湯跡。朽ちた建物が残っている。ここを左に下ると裏磐梯登山口に出る。小さな雪渓を渡って、更に 30 分登ると展望のある場所に出て、桧原湖や銅沼(ア双)が見えてくる。このあたりはセンダイムシクイ(多分)やホトトギスなどの小鳥の声がよく聞こえた。しばらく行くと左手に赤い岩肌をむき出しにした爆裂火口壁が見えてくる。高さ数百メートルの絶壁はこのコース一番の見所で、明治 21 年(1888 年)の大噴火で桧原湖や銅沼が形成された現場だ。少し上で道が 2 手に分れ、左手の花畑コースを行く。ヘビイチゴのような黄色い花のミツバツチグリの大株があった。

山開きのため弘法清水に郵便局の出張所があり、磐梯山を印刷した記念葉書ももらった。急登を一気に登ると磐梯山頂上。頂上直下にはミネザクラの大群落があった。頂上は晴。微風で快適。南に広大な猪苗代湖が見えた。ゆっくりしたかったが、次々に登山者が登ってくるので早めに下山。登りの登山者とすれ違うのが大変だった。雪解け水でぬかるんでいる所があり、注意して下った。早朝から登ったおかげで、11 時過ぎには八方台登山口に帰着した。登山者の車が駐車場に入りきれずに 1 km 先まで路上駐車していた。

むコースタイム：5:55 八方台登山口 6:15 - 6:45 中ノ湯跡 6:45 - 8:00 弘法清水 8:10
- 8:45 磐梯山 9:00 - 11:05 方台登山口 11:15

費用： 中の湯素泊り¥3,450 レンタカー代 高速代含め 1 人¥12,000

19 日(日) 奥多摩 鷹ノ巣山は雨ため中止になりました。

山旅 No.232 平成 25 年 6 月 1 日発行 発行者 高橋 和行 編集者 瀬川富美子
発行所 埼玉県入間市春日町 1 - 11 - 43 高橋方 好山好山旅会
WebSite <http://www.kozanko.net/>